

## 平成 29 年度第 1 回長崎市総合教育会議 会議録

- 1 日 時 平成 29 年 12 月 27 日（水）15 時 00 分～16 時 33 分
- 2 場 所 第二応接室（市役所本館 3 階）
- 3 出席者 **【市長】**  
田上市長  
**【教育委員会】**  
馬場教育長、中西委員、坂本委員、小原委員、吉松委員、野本委員
- 4 事務局 **【市長部局】**  
企画財政部政策監兼都市経営室長、同室主幹、同室係長、  
原爆被爆対策部被爆継承課長、同課平和学習係長  
**【教育委員会事務局】**  
教育総務部長、同部次長兼総務課長、同課総務係長、同課主査  
学校教育部長、同部学校教育課長、同課参事兼生徒指導係長、同課主査  
同部次長兼健康教育課長、同課係長、同課主査、同課指導主事
- 5 次 第  
(1) 開会  
(2) 内容  
①協議事項 平和教育再編成について  
②報告事項 給食のあり方について  
③その他  
(3) 閉会
- 6 議 事 以下のとおり

事務局 (市長部局)	<b>【15：00 開会】</b> ただいまから、平成 29 年度第 1 回長崎市総合教育会議を開催いたします。お手元に配付しております次第に沿って、市長より進めさせていただきます。よろしくお願ひします。
市長	では、29 年度はまず第 1 回目の総合教育会議ということで、少し後方の方に片寄る形になってしまっし申し訳ございませぬ。

市 長	<p>しかも年末の大変忙しい時期になってしまったことをお詫び申し上げます。  総合教育会議は大事な場所なので、計画的に開催できるようにしたいと思ひます  今日は、二つテーマがありまして、協議事項として平和教育の再編成について、これはこれまでも取り組んできた流れ、現状の報告の内容になるかと思ひます。  それから、報告事項として給食のあり方について、限られた時間ですので、早速進めさせていただきたいと思ひます。  まず最初に、2(1)協議事項 平和教育再編成について、資料1になりますけれども事務局から説明をお願いします。</p>
事 務 局 (市長部局)	<p>事務局の方から議題についてのご説明をさせていただきます。  長崎市の平和教育については、これまで「被爆の実相の継承」と「平和の発信」の二つを柱として行ってきましたが、新たに「平和の創造」という3つ目の柱を加え再編成することとし、現在、新たに「平和教育手引書」を作成しております。  また、被爆の実相などについてわかりやすく解説した副読本「平和ナガサキ」についても、「平和教育の手引書」に合わせて改訂することとしておりますので、その内容についてご意見をお伺いして、反映をさせていきたいというふうに考えています。  内容につきましては、担当課の方より説明をさせていただきます。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>本日は平和教育再編成についての説明ということで、最近の児童生徒はなかなか人の話を聞いてくれないということで、プレゼンでよく講話をさせていただいておりましたので、今日もプレゼンをさせていただこうと思ひます。  それでは、早速、説明に入らせていただきます。  皆様お手持ちのA3「生涯平和学習プログラムイメージ」それから、プレゼンをそのまま印刷しています資料を参照していただければと思ひます。  お手元の1枚もの資料「生涯平和学習プログラムイメージ」上段をご覧ください。教育委員会はこれまで、「被爆体験の継承」と「平和の発信」を2つの柱として、子どもの発達段階に応じた普遍的な平和教育に取り組んで参りました。  そのような中、被爆から70年を迎えた平成27年に「世界こども平和会</p>

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>議」が開催され、市立中学校生徒と世界 122 の国と地域から集まった若者たちが「平和」をテーマに話し合う機会を得ました。</p> <p>その話し合いでは、平和を願う心は世界共通のものであることを実感することができた反面、核兵器に関わる問題などについて、異なる価値観・異なる考えをもつ若者と意見を交わした時、長崎市の子どもたちが、自分と異なる意見が出された時に、その意見を受け入れ、その考えに対して自分の考えを主張するという点に関しての課題が見えてきました。</p> <p>A 3 の資料上段左をご覧ください。</p> <p>本市では、これまで「被爆体験の継承・平和の発信」という二本の基本方針を立て、被爆の実相を「知る」、被爆者の思いを「感じる」、ことを踏まえて平和を発信する平和教育を行ってきました。そのことは一定成果を上げてきたと自負しておりますが、これからの次代を生きぬく子どもたちには、他者の意見を受け入れ尊重しながら、その上で「自分で考える・自分の言葉で伝える」、「行動する」ことを新たなキーワードとして、そのような人材を育成することを目標とした「平和の創造」という新たな 3 つ目の柱を掲げ、平和教育の再編成を行うことといたしました。</p> <p>具体的な取組みとしては、教師向けの「平和教育手引書」の作成、それから、児童生徒向け「平和ナガサキ」の改訂です。このことについては、生涯平和学習プログラムイメージの中段から下段にかけても掲載しておりますのでご参照いただければと思います。</p> <p>これらの作成及び改訂においては、いずれもナガサキ・ユース代表団の大学生、被爆者の方、大学教授など教職関係者以外の様々な方々からのご意見を伺うこととしており、現在、協働して作成を進めているところです。</p> <p>本日は、「手引書」の中で取り上げるためにモデル校で実施しました「対話型授業」、「対話を含んだ被爆体験講話」の様子、そして、原爆被爆対策部と連携して作成を進めております「平和ナガサキ」の改訂状況をこの後ご紹介させていただきます。</p> <p>なお、これらの取組みは、長崎市全ての小中学生が先ほど申しました「他者の意見を尊重しながら、自分の言葉で平和を語り、行動できる児童生徒の育成」ということを目指しているものでございますので、ぜひこの後みなさまの忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。</p> <p>では、まず「対話型授業」について、7 月 12 日に小ヶ倉中学校で実践した内容について報告をいたします。</p> <p>この「対話型授業」の目的は、「対話や討論を通して、他者の意見も尊重しながら、自分の言葉で語る力をつける。」ということです。「世界こども平和会議」で明らかになった課題の改善に直接的に働きかける方策と位</p>
------------------------	---

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>置づけ、実践することとしました。</p> <p>授業の内容については、長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）の准教授及び、ナガサキ・ユース代表団の大学生と、授業者である小ヶ倉中学校の教諭とが、2度の検討会を経て作成したものです。</p> <p>また、7月12日の授業実践の際には、前出の方々に加えて、長崎大学理事にもご出席いただき、教育委員の皆様方にも参観をいただいています。</p> <p>授業者である小ヶ倉中学校の教諭は、当初、討論のテーマを「日本は核兵器を保有する必要があるか、ないか」とか「日本は軍備が必要か、必要ないか」など、是か非かを問うようなものを想定しておりましたが、准教授などとのこの授業検討会の中で、「そのようなテーマは、知識がある生徒しか語れず、語れない生徒はしゃべれない」とか「果たして自分事として捉えて考えることができるのか」などの指摘があり、最終的には准教授から、生徒が自分事として考えるテーマとして「科学者の苦悩」というテーマをご提案いただきました。</p> <p>ここに書いてあるんですけども、「あなたは優秀な若い科学者です。その能力を買われて国家プロジェクトへの参加が打診されています。その要請を受ければ、科学者としての将来が約束されます。断れば科学者としての未来はありません。その国家プロジェクトというのが、多くの人を犠牲にするような兵器の開発。あなたならどうしますか。」というテーマの設定をさせていただきました。このように下にありますが、二者択一ではなく四択にしまして、生徒の微妙な心の内が表現しやすくなる工夫をしております。</p> <p>それでは、その時の授業の様子、動画がございますので少しご覧いただければと思います。</p> <p>これは討論をしながら自分の立ち位置をネームプレートで変えている試みです。</p> <p>このような感じで生徒は自分がその科学者だったらどうするのか。といった自分事として戦争を止めさせるために核兵器が必要だという意見、それから、いや、やはりどんなことがあっても核兵器は必要がないという意見を戦わせながら、子どもたちなりに平和を考えるという取り組みを行っております。</p> <p>おおむね、生徒は自分の考えを持つことができた、伝えることができた、通常の授業よりも手応えを感じたようなアンケート結果が出ております。</p> <p>この後の授業後の感想でございますけども、「人の話を聴くことによっ</p>
------------------------	--

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>て、そういうものがあるんだなって知ることができた」とか、「自分とは違う意見を聴いたりして新鮮だった」といった意見が記されており、狙いに迫った意見も見られております。また、「正解がないのでモヤモヤした」といった意見や、「先生の一方通行の授業よりも、みんなで意見を出し合う授業の方が楽しかった」という意見など、いつもとはひと味違う授業は生徒たちにとって、興味深い体験となったようです。</p> <p>授業後の研究会においては、「想像をすること」、「自分事として考えさせること」の大切さや、対話をする以前の「考える視点づくり」「基盤づくり」の部分での教育の必要性についてご指摘をいただきました。</p> <p>ここで指摘いただいた事柄については、後ほど説明いたします「平和ナガサキ」の改訂のポイントとして、反映させることとしております。</p> <p>また、小学校での「対話型授業」についても、准教授などからの助言を受けながら、12月7日に城山小学校で実践したところです。</p> <p>この授業に関しては、事前の2回の授業を参観したナガサキ・ユース代表団の大学生から、交流が一方通行で、ねらいに沿ったものになっていないなどかなり厳しい意見をいただき、対話力のある高校生を対象にすることにしました。</p> <p>それまでは小学生同士の交流ピースナビ活動だったんですけれども、相手の小学生は一般の地方の小学生で、そんなに平和の知識がないということで、一方的に城山の子どもたちが話してしまうと、それに何の意味があるのかという厳しい指摘を受けたりしたところです。そこで、対話力のある高校生を相手にしたらどうなんだろうということで実践をしたところです。</p> <p>こういうふうな対話型の被爆授業というのにも小学校でもこういう方法で取り組むべきじゃないかというモデルでございます。</p> <p>次に「対話を含んだ被爆体験講話」についてです。</p> <p>教育委員会では、この「被爆体験講話」を、平成7年度から全ての小中学校で実施し、被爆者の生の声でその当時の話を伺う貴重な機会として取り組んでまいりました。</p> <p>今回の再編成にあたり、実際に講話をしていただいている平和推進協会継承部会の方々に「被爆体験講話」についてお話を伺いました。すると、「一方的に話をしてどれくらい自分の言葉を理解してくれたのが気になる」とか、「その場で子どもたちと直接やりとりができるといい」といったご意見をいただきました。</p> <p>実際に、現在行われている「被爆体験講話」は、一般的に「被爆体験講話者の話を聴き、感想・お礼状を書く」という流れで進められている場合</p>
------------------------	---

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>が多く、疑問を持ったり、自分の考えを表現したりする場面が不足していました。</p> <p>そこで、「語り部」の方々からのご意見を参考に、「これからの被爆体験講話」について、6月23日に蚊焼小学校で実験的に実践をさせていただきました。</p> <p>実践の内容としては、事前学習として講話者のプロフィールや講話の内容を教師がしっかりと子どもたちに伝え、「講話者への質問」を準備して被爆体験講話に臨みました。</p> <p>最初は硬い表情で一生懸命に質問をしていた子どもたちも徐々に緊張が解け、自主的にどんどん手が挙がるようになり、結局、全ての質問に講話者の先生が答えることができないまま「対話する被爆体験講話」の実践が終了しました。</p> <p>授業後、講話者の先生にお話を伺ったところ、「子どもたちがしっかりと話を聴いてくれているのが実感でき、とてもよかった」という感想をいただいています。</p> <p>なお、被爆体験講話終了後の感想については、これまで同様、語り部の方にもお礼状という形で伝えることを前提としておりますが、このあとで説明する「平和ナガサキ」の中に、きちんと記録を残すページを設け、今回から平和ナガサキの小学校版は小学校3年生から使うようになりますので、小学校3年生から中学校3年生まで、自分の記した「思い」が、すべて自分の手元に残るようにして、平和学習の足跡を「見える化」することとしております。</p> <p>次に、児童・生徒の教材としての「平和ナガサキ」の改訂についてです。</p> <p>改訂にあたり、前出の准教授及びナガサキ・ユース代表団などの大学生に現行の平和ナガサキを見ていただき、ご意見を伺いました。</p> <p>現在、小学校版は5年生、中学校版は1年生に配付している「平和ナガサキ」を見た感想なんですけども、「社会科の教科書のような」とか、「何を学んでほしいのか意図が見えない」といった、厳しいご意見をいただいています。また、「視覚に訴えること」や「児童生徒に考えるように問いを投げかける」といったようなご意見もいただくことができました。</p> <p>また、小ヶ倉中学校での「対話型授業」の際にご指摘いただいた「想像すること」や「自分事として考えること」、「考える視点や基盤づくり」という点も踏まえ、今回の改訂では「読む資料集」から「感じ考え、書き込むテキスト」への転換を図ることとしております。</p> <p>また、小学校3年生から6年生が使用する小学校版、中学校全学年が使用する中学校版の2つの教材を作成することとしており、これまでの「時</p>
------------------------	---

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>系列」に沿った構成から、児童生徒の発達段階に応じた構成とすることにもしております。</p> <p>具体的には、写真資料をできるだけ多く活用し、子どもたちが想像しやすくなるようにすること。子どもたちへの問いかけを随所に配置し、主体的に考えようとする場面をつくること。書き込めるスペースを適宜配置し、子どもの平和学習での「学びの記録帳」としての役割を持たせることです。</p> <p>なお、手引書にはそれぞれの写真資料の詳細な情報や、指導展開例などを示し、若い教員でも一定の指導ができるようにしています。</p> <p>現在、改訂作業中の「平和ナガサキ」小学生版を使って、少し詳しく説明をいたします。</p> <p>これは、現行の「平和ナガサキ」小学生版の1ページ目です。</p> <p>この1ページの中に「(1)被爆前の長崎」と「(2)原子爆弾投下」という2つの項目が、文章と写真で示されていました。「(1)被爆前の長崎」について、このように半分のページで伝えていた内容を1ページに膨らませていきます。下の部分には書き込みをする欄を設けています。</p> <p>また、「(2)原子爆弾投下」の内容については、このように4ページ分の内容で写真を多用し、児童生徒の想像を促すように工夫しております。</p> <p>次に、これは現行小学生版の「核兵器をめぐる今日の動き」のページです。</p> <p>これを、このように改訂しています。このページにも自分の考えを書いたり、友達との対話を促すような言葉を加え、子どもの主体的な学びにつなげるようにしています。</p> <p>まだまだ、改訂作業中で、今後も、准教授を始めとする「平和教育再編成会議」の方々に来年度以降も継続的にご意見をいただき、更によいものへと進めていくこととしております。また、実際に現場で使う先生方からも意見を伺うことにしております。</p> <p>長崎の子どもたちが、「他者の意見を尊重しながら、自分の言葉で平和を語り、行動できる」そのような「平和を創る人」になることをめざし、長崎の全小中学校で共通実践できる「平和教育カリキュラム」の作成に向けて取り組んでいきたいと思っております。このあと、みなさまからの忌憚のないご意見をよろしくお願ひいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>平和教育について、今年度の取組みの今までのところを報告していただきました。</p> <p>これまで、この総合教育会議が始まる前の頃からですね、こういう集ま</p>

市 長	<p>りの際、テーマになってきたんですけど、どうぞ自由に発言していただいて。</p>
委 員	<p>小ヶ倉中学校の取組みであれば、こういう手法を使われるとよかったかなと思うんですね。</p> <p>一つは「連想法」という手法があるんですね、作文ではなくて。</p> <p>例えば「核兵器」とか「戦争」とか、というキーワードに対して10分間で5つ連想するものを書きなさいという。それを例えば、クラスや個人で。そのクラスの人達はどのような認識を持っているのだろうかということ。</p> <p>例えば、ここでは科学者の苦悩ということで、このテーマは准教授の提案だということですけど、子どもたちのそういう連想で、どういうことを思っているのかなと、それに基づいてテーマを決めてもいいのかなと。それがピフォーの部分になるわけですよ。それで、実際にやってみて、アフターでもう1回同じキーワードで問いかけて、どう変わったのかなという。「連想法」とは同心円型になっていて、一番多い言葉が中心の部分に来るんですよ。1個しかないのは一番外側とか、それで、なお且つ似たような言葉は分類して、「戦争」とか「戦い」とかはこの辺、「辛い」とか「悲しい」とかはこの辺と。ずっと並べると子どもたちの実態が分かるし、どう考え方が変わったか、要するに、どう知ったのかなといったことが分かってくる方法があるんです。</p> <p>私、障害者についての学習をしたクラスに検証をしたことがあるんですけども、ものすごく変わりましたね。障害者の疑似体験とか、点字についても自分たちは点字を触っても全然読めないのに。障害者ってすごいねという情報を持たせたら、すごく認識が変わりましたね。</p> <p>円グラフで、どう変わったかというのはありましたけれど、変わったかではなく、今どういうふうに思ったかというそういう手法なども、手引きに入れるかは別にして手法としていいのかなというのを感じましたね。</p>
市 長	<p>正解を求めるのではなくてね。</p>
委 員	<p>そうですね。それを見ていろんな考えがあるよねといった。</p> <p>みんなの結果をまとめて公開しますから、そういう思いもあるのかとわかる。当然、グループで議論してもいいとは思いますがね。</p>
教 育 長	<p>同じテーマでも学年によって出てくるものは全然違うでしょうね。</p>

委員	<p>そうですね。また、3年生、6年生、中学生でやっても、同じ土俵を使っているから、考えがどう発達したかなというのも見られると思うんですけども。</p>
市長	<p>それはかなり広く使える方法ですね。</p>
委員	<p>平和教育だけではなくて、何でも使えるんです。 ただ5つの言葉を書くだけだから、なかなか思いを表現できない子ども、割と誰でも書けるんですよ。</p>
市長	<p>大人にもよさそうですね。</p>
委員	<p>もう一点、資料を見ながら思ったんですけども、知る、感じるのところでですね、先ほどの視覚化するというので、主には写真なんですけど、平和じゃない状態を視覚化してますよね。 それじゃないですよ。平和っていうのは視覚化しにくいんですよ、この世界だからそこを写真に写しても。 なので、平和を視覚化、認知化するために、私は、筆箱の中の平和、机の引き出しの中の平和、教室の平和、学校の平和、家庭の平和、地域の平和という何が平和なのかっていうのをこう。 筆箱の中がめちゃくちゃだったら平和じゃないじゃないですか。ちゃんと片付けてよそれが平和だよと。そういう平和ってきちっとして整然として嫌な気持ちにならない状態なんだなというのを、例えば、家庭で夫婦喧嘩がない状態、これなんか視覚化できますよね。お父さんとお母さん、あるいは自分とお父さんとお母さんは違いがあるんですよ。だから喧嘩してるんで、そういうところから視覚化して、これが全世界に広がっているのと同じ状態だと。そういうのが認識しやすいのかなと。 それを手引きに書くかはまた別で。平和じゃない状態だけが視覚化じゃなくて、平和をどう視覚化するかを考えるべきかなと思います。</p>
市長	<p>あなたが考える平和を写真に撮ってきてください。といった、子どもも参加しての平和の写真展とか、たまにありますけども、家族だったり、兄弟だったり、友達だったり。 体験を次のステップにと考えると、いろんな今みたいな方法が出てきそうですね。</p>

委 員	その辺、今まで言ったのは心を耕す部分ですね。ここに書いてありますよね。自尊感情と自己肯定感が持てないと、他尊感情、他者肯定感は持てないですね。いじめのスタートだと言われてますけど。
委 員	質問なんですけれども、先ほどの小ヶ倉中での科学者の苦悩っていうその授業の目的といったものはどんなところにあったのかを教えてください。
事 務 局 (教育委員会)	この科学者の苦悩というのを取り上げた目的ですか。
委 員	取り上げたことと、授業で討論して行って、それから何をしようとしたのか、何を目的にしたのかなと。
事 務 局 (教育委員会)	<p>先ほども途中で話をしましたけれども、まず、自分と違う立場の人の気持ちも考えながら、平和への取組みをさせたかったというところで、平和ってなんだろうというふうな授業ってよくやるんですけど、どうしてもその被爆者の思いを感じる。原爆はダメだとか、核兵器はダメだとか、そういう答えしかなかなか授業として出てこないことがありましたので、なぜあの時に原爆が落ちるような状況になったのか、というところを中学生なりに考えさせるテーマとして、科学者の立場に投影させることで、結局、平和のためにアメリカは原子爆弾を落としました。しかし、長崎の被爆者は平和のために核兵器はダメだと思っている。その辺のところを子どもたちなりにですね、同じ平和というテーマで向こうもやったんですけど、受け手側は別の意味で平和を考えている。そういうところで、子どもたちなりに考えさせたいなという願いがあったところです。</p> <p>そのためには、一旦、科学者側に自分を立たせるという行為をすることで、そちら側の考え方についても一定受け入れるという体験をさせたい。そういう意図で今回仕組んだところです。</p>
委 員	<p>他の人の意見を聞いて、自分なりの意見を考えるというところが主眼だったのかなというふうに今お聞きして思いましたけれども。</p> <p>たぶん、この科学者の苦悩とかっていうこのテーマにしても、正解がないことが前提じゃないかと思うんですが、これはむしろ、正解はあるという前提でやってもいいんじゃないかというところがあって、というのが、小学校、中学校の時ってまだしっかりとした考え方を持ってないというところが多分にあると思うんですね。その中で、一定の価値観をきちんと教え</p>

<p>委 員</p>	<p>るといいますかね。一方的になってはいけないのはわかるんですけども。考えさせて考えさせた上で、でもやっぱり正解はこうなんじゃないのというところを示して、ああそういうものなんだねっていうふうに思ってもらおうというところまでやってもいいんじゃないかなと思っていて、例えば、この討論をした結果、迷わず参加するといった人が一定数いたとして、それで終わりという風になるのはちょっと違うんじゃないかなと思っていて、例えば、高校生とか大学生になったらいろいろ考えて終わりにして、また、その後もどれが正解なんだろうなというふうに考えるというのもありなのかなと思うんですけども、小学校のうちというのは一定の価値観を、例えば、先生としては正しいと思うよというようなところを言ってあげて、その上でああそうなんだ、それは本当に正しいのかな。というふうに思っ、そこから考えさせるというやり方もひとついいんじゃないかなと。</p> <p>最初のよくわからないうちに考えるだけでさっと終わってしまうと、そこから先に進まないような気がしていて、多感な小学校高学年だったり、中学生という時に、こんな考え方なんだというのを示してあげるということも必要んじゃないかなということも個人的には思いました。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>実際、この授業で、最初子どもたちの自分なりの考えがあったんですけども、話し合いを進めるうちに、やはり、何人も殺すような核兵器はよくないといった方向に移り変わっていったというのが今回の授業だったんですけども、長崎市の子どもたちの陥りやすいのは、結論ありきで、戦争はダメだ核兵器は良くない。それで、その後考えようとするのがなかなか進まなかったんですけども、こういう科学者の立場に立っているんな考えを出すことによって、異なる意見を一旦受け入れて、その後、自分たちでそれを修正していくといえますか、考えてまとめていくという授業が今回の狙いで、実際、そのとおりに動いていったなという思いはありました。</p>
<p>事 務 局 (教育委員会)</p>	<p>委員さんのご指摘は本当にその通りで、実は、道徳教育がそうなんです、一つひとつのいわゆる価値項目といえますか、そういうのをしっかり低学年の時期から教えていくということをするんですけども、中学生ぐらいになると、いわゆるモラルジレンマという、どの価値観が大事なんだろうということを経験させるという論議ができるんじゃないかなということで、今回、考え、議論するという部分がある程度身についた中学校で取り組んでいるので、小学生では無理なんじゃないかというふうに思っています。</p>

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>やはり、長崎の子どもたちは被爆者の思いをずっと聞いてきているので、やっぱり最後はダメだよと、どんな理由があっても核兵器を使うのはダメだよというところにはほとんど今回も行ったんですけれども、でも、一旦、そうじゃない人達はなぜじゃあ使ったんだろうというところに思いを巡らせるということについては、すごく効果があったのかなというふうには思っています。</p> <p>でも、それを低学年や小学生でやるというのは冒険で、それはあまり良くないんじゃないかという気がしております。</p>
<p>市長</p>	<p>今の世の中で一番大事なテーマの一つで、当事者意識をどれくらい持っているかというところは、地域にとっても企業にとってもすごく大事なポイントで。</p> <p>今の話では、例えば、アインシュタインがドイツとか造っているから早くアメリカも造った方がいいですよといった手紙を大統領に出して、開発が始まったということの後々まで悔いて、日本に来てから涙を流したという話がありますが、原爆を造った人たちはみんな悪い人達かというところではなくて、なんとか平和のため。平和が大事だ、平和と戦争とどっちがいいんですかと言ったら、みんなほとんど100パーセントに近いぐらい平和。でもそこから先は分かれてしまうというんですね。</p> <p>自分がその科学者だったら、どうしただろうという当事者になるという経験をどこかです。評論家みたいに、客観的にどっちが好きですか、どっちがいいと思いますかみたいな感じじゃなくて、どこかで一回、自分の中でそれを戦わせてみる。</p> <p>現場に出て何かをしようと思ったら、必ずそういう当事者体験というのは、当事者意識を持つことにつながる。</p> <p>例えば、地域でイベントするという時に、全部大人がしてやって、子どもはお客さんでお菓子もらって遊んで帰るという地域と、子どもにこのテントはあなたたちのテントだから、6年生、ちゃんと低学年と話をしながら椅子並べたりしてという地域があると、イベントに行くと、そっちの方が子どもが生き生きしている感じがして、これもやっぱり、後々大人になって、当事者、自分が地域の一員になったという意識を持つことにつながるのかなと思ったりするんですけど。</p> <p>当事者意識をどうつけるのかというのがすごく大事なテーマのような気がするんですけども。</p> <p>そういう意味で、自分が当事者になって、中に入って考えるという、そういうテーマでもあるのかなと。</p>

市 長	<p>どういテーマだと核兵器について自分事として考えるかという、被爆者になってみるか、科学者になってみるか、つくる方になってみるかという時に、被爆者になる体験というのは、時々長崎で出てきたりする。まあ、なれないけれども近づこうとする。つくる人になるという体験はなかなかないので、これはすごく面白いテーマだなと思ったんですけど。</p> <p>当事者意識を持つというのはどんどんすたれて、自分が地域に住んでいても、「地域にお世話になっていません。私は一人で生きています。」という感じの人が増えて、そういうことでだんだんいろんな問題が起きているというのもあるのかなと。</p> <p>違うことなんですけど、まちの中でも当事者意識の減少の問題があって。これは結構、大人でもどこに置くか迷ってしまうことがありますよね。</p>
委 員	<p>関連してよろしいですか。この討論のテーマの一番のポイントは「あなたならどうする」というところかなと思うんですね。単に、科学者としてどれを選ぶかとなると、浅い討論で、葛藤もあまり生まれることもないかもしれないんですけども自分が科学者の立場で、仮にこういう兵器を造ったら、多くの人を犠牲にして、多くの人を殺したことをずっと背負って、死ぬまで背負って生きなければならぬというそういう想像力を働かせて、人間としての苦悩を、中学生だからできると思うんですけども、人間としての苦悩も道徳の授業なんかで揺らしながら、単なる科学者として選ぶ道ではなくて、あなただったらどうすると問われているので、そこをもっと想像力を働かせて、自分が科学者として将来約束されて出世するのは幸せだけど、多くの人を殺したことを引き受けて最後まで生きていけるのかどうか、苦しまないで生きていけるのかというふうなところまで、心を掘り下げて想像させて考えさせることで、自分ならどうしようかというふうに迷ってどこに行くかというふうになると、たぶんそういうふうな事例だったんだろうと思うんですけども、</p> <p>こういうワークショップ形式で陥りやすいのは、なんか活動した、楽しかったで終わりそうなものを、実際そうではなくて、今までのその知る感じる平和教育、思いを感じたところから、平和の創造と、平和を創る、当事者を創る授業をしないといけないので、やはりこういうワークショップ形式で感じさせて、体験をさせてそこで初めて感じたことが身につく。</p> <p>教えてもらったこと、聞いたこと、見たことだけではなかなか力にならないけれども、自分が唯一体験したことは気づきがあるので、気づくところから前に一歩行動を起こす力につながるという意味でこういう授業の形態を私は非常に有効だと思うんですね。当事者意識を育てる。それで、その</p>

委員	<p>時にやっぱり、単なるゲーム形式にするのではなくて、どこで子どもの心を揺らして、耕して、想像力を豊かにして、自分が当事者だったらどうするのかというような、発問というか投げかけを授業者がしていくことが大事かなと思いますね。</p> <p>こういう授業をいろんなところでやっていくと確実に子どもたちは、当事者意識を持って変わっていくと思いますね。知識だけの平和教育からはるかにレベルアップできるんじゃないかなというふうに期待しています。</p>
市長	<p>やってみて、使用前使用後のようなのをどこかで見るという。</p>
委員	<p>私はですね、中学生の私じゃなくて今の私が、小ヶ倉中学校のテーマで「いやこういうプロジェクトは間違っている」という科学者グループを作って、意見として生徒の方に提案します。</p>
教育長	<p>そこは人生の経験者として。</p> <p>それをいったらたぶん、先ほど委員がおっしゃっていたことと一緒に、低学年だとその経験がないところするのはいいことなのか、危ないことなのか、その年齢、発達段階に合ったものに仕組むというのは、やっぱり先生方の知恵がいるんですよね。</p>
市長	<p>平和教育がワンパターンになって、もう平和教育は嫌だ、また今年も同じことをするのかみたいな話が中学生ぐらいになると時々出ますよね。</p> <p>こういうところに進むというのは、やっぱり子どもたちも望んでいる部分もあるんですよね。</p>
委員	<p>今年の夏にですね、交換留学生でアメリカに送る側の学生、高校生の面接試験をしたんです。その時にアメリカに行って自分が一番やりたいことというのが、それぞれ一生懸命一万人署名とかそういう運動に取り組んでいる子どもたちなんですけど、5人が5人すべてそのいわゆる原爆の悲惨さだったり、平和のことを伝えたいと言われていたんですが、その時に非常に意地悪い質問をしたんです。アメリカに行ったら、「原爆のおかげで戦争が早く終わったじゃないか。」そういう反論を必ず受けますよ。それに対して、あなたはどうか答えますかと5人それぞれ聞いたんですけれども、ほとんどそれが言えないんです。</p> <p>それで、核廃絶の運動に一生懸命取り組んでおられる先生に、今日の会議のアドバイスをお尋ねしましたら、先生も、高校生の意見がいわゆるス</p>

委 員	<p>テレオタイプになってしまっている。それに非常に危機感を持っておられて、もっと自分で考えたり、自分で調べたりというようなことをして、自分の意見を創っていくというような訓練をしないと、全部たぶん指導をしている先生たちの受け売りになってしまっているんじゃないかということ非常に心配されていて、解決策をお尋ねしますと、先ほどの委員の意見と全く一緒で、小学校までは決まった形というものでまずは基礎を作って、それで、中学生の後半ぐらいからいろんな意見を戦わせて自分の意見を創っていくというような訓練をしていかないとだめだろうね。というようなことをおっしゃっていました。</p> <p>非常に今ここでやり取りされていることと被さっておもしろいなと思ったんですけど。</p> <p>やっぱり、これまでの平和教育のちょっと型にはまったものから少し自分たちで考えていこうというふうなアクティブラーニング的なものになってきている。そういう意味では非常にいいことじゃないのかなという気がします。</p>
教 育 長	<p>委員さんに持ってきていただいたこの資料はわかりやすいですよ。</p>
委 員	<p>長崎市立の小学校のOBで、中学校から兵庫県の方に行ってる方なんですけれども、新聞の記事に関する感想コンクールで兵庫県知事賞をとられたということで。素晴らしい文章だなと。</p> <p>私自身もそうだったんですけども、長崎からよそに出た時に、8月9日のことを誰も知らないという、ある種、非常に驚きを持った。やはり、今の子どもたちも同じようなことを感じてるんだなと。</p>
市 長	<p>県外に出て初めてわかる。</p>
委 員	<p>世界に向けての発信というの、もちろん大事なんですけれども、まずはやっぱり、国内にいろいろ長崎の子どもたちの声を届けていくというの、も大事なのかなと。</p>
市 長	<p>本当にそうなんです。それが一番大事なテーマ。</p>
委 員	<p>子育て支援センターには、転勤で県外から来られているお母さんたちが結構多くて、そこで、長崎出身のお母さんたちと原爆の話や登校日の話になるんですけど、県外の人には原爆のことを学校で学んでないという話を長</p>

委員	<p>崎出身のお母さんたちが聞いて、知らなかったとびっくりされた。</p> <p>私はこうやって学校で勉強してきたとか、そこでいろんな話をして、それで、子どもたちにどんな教育をしたいと聞くと、やっぱり伝えたいと。県外のお母さんたちはやっぱり長崎に来てよかったと。長崎の学校に入れて、そういう教育を受けさせたいと言っておられました。</p> <p>私の子どもも県外に行って、周り人がみんな知らないことにもものすごく驚きを感じて、これは伝えていかないといけないと県外で友達と話をすると。そういう人が一人ひとり増えていくことが大事。だから、小中高で学んで県外に出た長崎出身の人たちがもっと伝えましょうよみたいな。外に出たからこそわかる長崎のすばらしさとか、学校で教育を受けてきたすばらしさとか、県外に出た人にしかわからないことがやっぱりあるんだなとそう感じました。</p> <p>それと、被爆 70 年。120 年間草木も生えないと言われたこの原爆の状況の中で、長崎がこれだけ発展してきた。長崎の人たちのエネルギーってすごかったんだね。どうだったのか聞いてみたい。震災とか見ますので、原爆の立ち上がり方とかどうだったんだろうと聞かれた時に、ああそうね、それあまりよく知らないね。ということ子どもと話をして。子どもたちのそういう視点も大事ですね。そこが長崎人の誇りというか、これだけ草木も生えないと言われた長崎を復興させて、すごいエネルギーだったんだね。そこからこう平和を創るというエネルギー。じゃあ自分は何をしていくのか、長崎人として誇りを持ってどう貢献していく、社会人になっていくのかなというのがそこから出てくるのかなと思って。平和教育って幅広いなとすごく感じました。</p>
委員	<p>その辺の流れは視覚化できますよね。この写真の背景のところから、だんだんまちができてきた。戦争の終わりから平和を創っていったんだよみたいな。</p>
委員	<p>そういうのもあるんですか。</p>
委員	<p>そういう流れで作ってありますね。</p>
市長	<p>そのあたりをもう一度見直して。戦後の被爆者の人たちが苦しかったのは 8 月 9 日だけじゃなくて、その年だけじゃなくて、むしろ、その後に貧乏とかも含めて、いろんな辛さや厳しさがやってきた。</p> <p>もう一つ、その中から力を合わせて、外の力を借りながら復興を進めて</p>

市 長	<p>きた。その両方の歴史をもう一度しっかり、そういう動きは今出てきてますね。</p> <p>確かに、いろんな国の人達と交わった時に、どう復興したのかというのはすごく興味を持たれてて、いろんなところで内戦があったり、戦争を経験したりしているところは共通のテーマですね。</p>
教 育 長	<p>東北大震災があった時、3月11日のあと、8月にいわきから来た子どもたちをどう迎えようかと、長崎の子どもたちが笑顔で迎えていいんだろうかと。いわきの子どもたちが来て、原爆資料館で焼野原を見た時に、「あ、いわきと一緒に。」と。</p> <p>今、言われたように、70年経ったらこうなるんですね。帰りに言われたのが、「10年経ったら、ぜひ、いわきに来てください。僕たちが絶対復興してみせます。」と。中学生の子どもたちだったので、そういう力を感じるのにはあったんだろうなど。</p> <p>すぐ原爆の悲惨さに目がいくけれども、今言われている復興するエネルギーとか、そこを本当は語ってもいいんですよ。</p> <p>確かに、そこは本当にあまり焦点が当たってなかったところなので、やっぱり、これから必要なのかもしれないね。</p>
市 長	<p>焦点があたってないということで、もう一つ思うのがですね、アメリカの高校生とかが、長崎の原爆資料館を見たり、被爆者の話を聞いたり、まちを見たりとかして、原爆資料館を見た人たちの中に、本当に自分の国がこんなことをしてごめんなさい。知らなかった。すみません。と言って知ってくれるんですね。高校生に限らず大人でもですけど。それは国とか関係なく、すごくどこかで共感してるという感じだと思うんですけど。「知ってください。」「もっと知ってもらわなきゃいけない。」という長崎の人たちの発信の方も確かに足りない。同時に、自分たちは他の国の戦争とか、今起きている戦争とか、もっと内戦でたくさんの方が傷ついているとか、そういったことをどれくらい知っているんだろうっていうのがあって、国際理解教育はその中の一つ、長崎市が進めている、教育委員会が進めてくれている部分ではありますけど、そういう共感を持つというのかな。その部分というのは、たぶん今からものすごく大事な力になっていくんじゃないかなと思います。そういうチャンス、子どもたちがそれに触れるチャンスが長崎には、よそのまちよりたくさんあるので、あとで自分が困った時の力にできるんじゃないかなと。</p> <p>他のまちの戦争体験って長崎でもほとんど語られないですよ。そのこ</p>

市	長	ともやっぱり、もっとあってもいいのかなと。広島のことだってあんまり知らない。そういうことも一つテーマとしてあるのかなと。
市	長	他に、まだ平和教育のご意見ございませんか。
委	員	私は、こういう学習形態というか手法が、今後の学習指導にもあるアクティブラーニングにつながるので、主体的に学んで、自分の思いを自分の言葉で語れる子どもたちを育てていくと確信ができるので、ぜひこういう手法でやっていきたいし、そこで、先ほど述べましたけど、落とし穴に絶対はまらないように、先生たちが安易にこういうのをやれば子どもたちが育つということではなくて、しっかり目標を、どうやって子どもの心を耕して葛藤を見出すかという研修をもっと深めて、子どもたちを育てていけば当事者意識を持った子どもたち、主体性のある子どもたちが育つというふうに期待しています。
委	員	<p>一点いいでしょうか。学習方法なんですけれども、先ほど「連想法」とか言いましたけど、最近、企業、教員採用試験でも時々ある自治体がありますけど。グループワークという形でよくされてますよね。問題がたいていとんでもない問題なんですけれども。</p> <p>今、知ってるのは、「桃太郎のお話、サル、キジ、イヌにあと2匹動物を加えて鬼退治の作戦を考えよ」とかですね。「ドラえもんに、今、現在必要な新しいアイテムを作り出さない」とか、「1本の鉛筆を1万円で売れる方法を考えなさい」とか。この平和教育もここでは科学者の苦悩がありますけど、こういう状況でどうするか、みたいな多様な考え方を、画一的でない中、考える一つの学習の方法として楽しいんじゃないのかなと思うんですよね。</p>
委	員	<p>長崎における平和教育、平和というのは、どうしてもスタートが原爆という悲惨なものがあって、ああいうことになっちゃいけないからということで平和を求めていくようなところがあるじゃないですか。</p> <p>平和と悲惨さが結びついてるような感じがするんですけど。実は、観光関係の業界っていうのはですね、いろんな産業の中で一番、平和でないと成り立たない。お客さん来なくなるわけですから。平和っていうのがいかに楽しくて、明るくて、そういうところから落とし込んでいく平和教育みたいなものも考えられないのかなという気がするんですけど。</p>

事務局 (教育委員会)	<p>以前からそういうことに陥りやすくてですね、平和のポスターを描きなさいと言うと、原爆の悲惨さの絵を描いたり、本当にワンパターン化している部分があったんですけども、少し先ほどちょっとありました家族の平和だとかですね、学校の平和だとか、少しそういう本当に平和っていうのはどんなふうに子どもがイメージしているかというのを出させるような、そういうところも少しつつやっていると。もうまさしくそのとおりだと思いました。</p>
市長	<p>私も、一つ、今回この平和教育の新しいステップに進むのは、ぜひ続けてやっていただきたいと思っているんですが、長崎でどうするかということにとどまらず、この同じ問題意識というのは、長崎だけの話ではないので、このやり方がもし上手くいくのであれば、いろんなまちに輸出していいと思うんですね。その時に、前はこういうやり方でこんな子どもたちの反応だったけども、今はこういうやり方をすることで、こういうところが伸びてきたとか、変わってきたとか。ビフォーアフターをしっかりと把握しておくというのはすごく大事なことだと思うので、将来、こういうやり方をすることでこういう変化が起きてきたというようなこととかを、他のまちの人たちにも説明できるようにしておいてほしいという。</p> <p>平和を創る、このやり方が平和を創ることに貢献できるのであれば、これを輸出していくことは、長崎が平和を広げていくことになるので、それも大事な長崎の使命の一つだと思うので、そういうところをぜひ想定、シミュレーション、イメージしながら、今やるべきこと、今だからやっておいたほうがいいこと。あとになってしまうと取れなくなるデータとかがあるのかもしれないので、そこもぜひ考えてほしいなど。</p> <p>長崎の平和教育がこういう形だったのを、こういう形にしました。そのことで、こういう変化がありましたということ。ぜひ、いろんな機会にいろんなまちの人に伝える。そういうチャンスがあると思うんですね。</p> <p>私もいろんなまちの人に伝える機会があると思うので、その時にはぜひ話をしたいので、ストーリーをぜひ今から創って行ってほしいですね。</p>
委員	<p>関連してよろしいですか。</p> <p>その時の一つの資料として考えられるのが、子どもたちの感想文じゃないかなと思うんですね。これまでの感想文は、だいたい平和は大事だ、戦争はいけないというようなワンパターンの感想文が多いんですけども、それはそれとして、それこそビフォーになって、こういうのをしていくと、一番大事なのはふりかえりなんですね。ふりかえりで、何に気づいてるの</p>

委員	<p>かというのを必ず書かせることで、感想文を比べることができる。そして、こういうのをずっと繰り返していけば、自分で考えたことを自分の言葉で述べる子どもが必ず生まれてきますので、明らかにこんなふうに、ステレオタイプ的な感想文を書いていたけれど、こういう授業を重ねていくとこんなふうに具体的に自分ができることを述べるようになったとか、友だちの意見に対して、こんなふうに考えるようになってるというような、子どもの姿をとおして、変わっていくのを感想文というふりかえり文でお示しできるのではないかなと思うので、そういうので作っていかれるのも一つの方法かなと市長のお話を伺いながら思いました。</p>
市長	<p>基本的にこのやり方で進めていって、いろんな先生方のレベルも上げてもらいながら、教材のレベルも上げてもらいながら、また、しばらく経った時にその変化を報告していただくというのでよろしいでしょうか。</p>
市長	<p>では、二つ目の報告事項にいきたいと思います。「給食のあり方について」です。資料2になりますけれども、担当課から説明をお願いします。</p>
事務局 (教育委員会)	<p>今月 19 日に P T A 連合会と教育委員の皆様により、学校給食センターについて協議をさせていただきました。</p> <p>P T A の皆様からは、食物アレルギーへの対応や食育の対応など心配な点もあることから、給食の望ましいあり方も含めて十分議論をしてほしいという要望も出されたところでございます。</p> <p>教育委員会としましては、学校給食に対する理解を深めていただく機会や、コミュニケーションの不足があったのではないかとの思いもあり、今後、給食の望ましいあり方も含めて、議論を重ね、相互に理解を深めていくことに努めることとしているところです。</p> <p>そのような中で、今回は改めて学校給食の役割とは何かについて、また、協議の場で P T A 連合会の方から特に心配している課題として指摘を受けております食物アレルギー対応につきまして現状と課題をご報告させていただき、市長と教育委員の皆様とで情報、認識を共有したいと考えたところです。</p> <p>それでは、資料の方で説明させていただきます。資料 2 の 1 ページをお開き下さい。学校給食の役割についてですが、学校給食は、児童生徒の心身の健全な発達のため、栄養バランスのとれた豊かな食事を提供することにより、健康の増進を図るとともに、食育のための「生きた教材」として、</p>

<p>事務局 (教育委員会)</p>	<p>活用されております。</p> <p>平成 21 年に改正された学校給食法には、「学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に資するもの」「学校給食の普及充実及び学校における食育の推進を図ることを目的とする。」と教育的役割が期待されており、この目的を実現するために次の目標を達成するよう努めなければならないとされています。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 適切な栄養の摂取による健康の保持増進を図ること。</li> <li>(2) 日常生活における食事について正しい理解を深め、健全な食生活を営むことができる判断力を培い、及び望ましい食習慣を養うこと。</li> <li>(3) 学校生活を豊かにし、明るい社交性及び協同の精神を養うこと。</li> <li>(4) 食生活が自然の恩恵の上に成り立つものであることについての理解を深め、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。</li> <li>(5) 食生活が食にかかわる人々の様々な活動に支えられていることについての理解を深め、勤労を重んずる態度を養うこと。</li> <li>(6) 我が国や各地域の優れた伝統的な食文化についての理解を深めること。</li> <li>(7) 食料の生産、流通及び消費について、正しい理解に導くこと。</li> </ol> <p>学校給食を提供するにあたっては、おいしい給食であることはもちろんのこと「学校給食衛生管理基準」に従い、食品事故を起こさないための安全管理が極めて重要となります。2 ページをご覧ください。</p> <p>学校給食における食物アレルギー対応の大原則ですが、これは、文部科学省の指針から抜粋したものとなっております。</p> <p>一番目に、「食物アレルギーを有する児童生徒にも、給食を提供する。そのためにも、安全性を最優先とする。」としております。</p> <p>以下、食物アレルギーへの対応につきまして、安全性確保の観点から、組織的に行うことや基本方針の策定の必要性などが明記されており、長崎市におきましても安全で安心な学校給食の提供のため、食物アレルギー対応マニュアルを作成し、全教職員で対応を行っているところでございます。</p> <p>次に、3 ページをご覧ください。食物アレルギーを有する児童・生徒の現状についてですが、(1) 児童生徒数については年々減少しておりますが、(2) 給食での対応を希望する児童生徒数は、昨年度から増加しており、29 年度は 504 人となっております、全児童生徒の 1.8% となっております。重篤なアレルギー症状となるアナフィラキシーショックなどに対して用い</p>
------------------------	--

事務局 (教育委員会)	<p>られる、自己注射薬であるエピペンを、医師から処方されている児童生徒数も増加傾向となっております。</p> <p>4ページをお開き下さい。市立小中学校における「調理に伴う除去食」対応についての資料となっております。</p> <p>1 除去食の提供ですが、学校給食では食物アレルギーを有する一部の児童生徒に除去食の提供を行っております。</p> <p>現在、各給食施設に食物アレルギー対応の専用室がないため、代替食での対応は行っておりません。各学校単位で、安全性を最優先に除去食での対応を行っております。そのため、栄養士の配置の有無などから、除去食の提供などに対応の差がある状況となっております。</p> <p>2 調理を伴う除去食実施校については、アレルギー除去の給食対応を希望する生徒がいる小学校全体 57 校中 29 校でしか対応しておらず、実施率は 50.8%、中学校におきましては 30 校中 5 校で実施率 16.7%と少ない状況となっております。</p> <p>3 除去食の提供ができない、または、困難な学校についてですが、先ず、提供ができない学校は、保温食缶配送方式、これは業者の工場調理して配送する方式のことですが、小中をあわせて 10 校、除去食の提供が困難な学校は、親子方式の子学校で小中で 18 校、共同調理場の受配校で小中 17 校となっております。</p> <p>4 対応アレルギー及びその対応内容は表のとおりとなっております、主なアレルギーごとの対応例を記載しています。</p> <p>今後はアレルギーを有する児童生徒が安全安心、楽しんで給食の時間が過ごせるよう対応の充実を図っていく必要があると考えております。説明の方は以上です。皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。よろしく申し上げます。</p>
市長	<p>報告事項ということになっておりますけど、給食のあり方。総論みたいな話ですよ。ご意見をというのとは全般的な意見ですか。</p>
事務局 (教育委員会)	<p>アレルギーについて、現状、いろいろ議論になった点がありますので、全般的なものと、またアレルギーについてのご意見を賜ればと思います。</p>
教育長	<p>次の会合のテーマにはなっているんですね。</p>
事務局 (教育委員会)	<p>P T Aの方からもアレルギーに対して、やはり、話し合いをしたいという意見が出ております。</p>

委 員	<p>実際、学校給食でアレルギーに関する事故というのは起きていますか。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>今年度、教室での誤配送ということで事故が数件起きております。</p>
委 員	<p>誤配というと除去食は作られたことは作られたんですよね。</p>
事 務 局 (教育委員会)	<p>作られたけれども、子どものもとまで届かなかった。教室まで行ったけれども子どもの手に渡らなかったというものです。</p> <p>健康被害は出ていません。</p>
市 長	<p>給食の件は、給食センターの件についても教育委員会の中でも議論されていると思うんですけども、今回の市PTA連合会からの陳情の方では、さっき説明の中でコミュニケーションが足りなかったんじゃないかという話もありましたけれども、今回、陳情項目の中に給食に関する協議をする場をつくってほしいということが、それは教育委員会の方でもつくりましょうということになってるんですけども。給食について話す場が以前からあってもよかったのかなと。この場ではなくて、また給食について詳しい方だったりとか、地域のみなさんが入ったような場。</p> <p>子どもの教育は非常に多分野に及ぶので、そういう仕組みが今までなかったというか。ひょっとすると他の分野でも、こういう仕組みがあるというろんな議論が出てきて、その分の対応とかもできるかもしれないし。そういう分野もあるのかもしれないという気もするんです。そういう意味では、今日ここでどうこうではないですけども、仕組みとしてもし何かあった方がいいものとかあったら、これから教育委員会の中でやってもいいし、他でもいいですけど、議論するテーマになりうるかなという気がするんですけど。</p> <p>給食はやっぱすごく大きい。特に、子どもの貧困の話にもまた少し絡んでくる分野でもあったり。</p> <p>教育委員さんは給食を作るところを見に行ったりとか時々されてるんですね。給食がテーマに決まれば、一回給食の議論をする前に、見せてもらって議論するというふうなことができるといいなと。現場を見てないとそれこそイメージだけで話してもあまり意味がないので。</p> <p>給食のアレルギーの問題など、教育の現場に出てきたちょっとしたどうあるべきかという話というのは、教育委員会の中でしっかり議論していただいているので、そこに首を突っ込んでということは。</p> <p>それが、予算に絡んだりとか、こども部であるとか他の分野の政策に絡</p>

市	長	<p>んだりするとかいうふうになってくると、一緒に考えた方がいいという部分が出てくるので、この場で議論するテーマになってくるとは思います。そういう意味では、今後、給食に関してはどういう議題、協議事項の設定になっていくのか、というのは工夫をしながら考えていければと。大事なテーマであることは間違いないので。</p> <p>給食センターは初めてのチャレンジになるので、いろんな議論を今十分やっておくと、たぶん後にも役に立つことになると思います。</p>	
市	長	<p>他に何か給食の関係でご意見ありませんか。</p> <p>では、報告事項ということで、今後適宜、必要に応じてテーマにしていくということにしたいと思います。</p>	
市	長	<p>他に、(3)その他ですけど、何か委員さんの方から自由に、この会議のあり方のことでもいいし、もっと他の教育に関する話題でもいいし。何かありましたら。</p>	
委	員	<p>キャリア教育はいずれまたテーマになりますか。長崎に根付いてほしいということのキャリア教育。</p>	
教	育	長	<p>教育委員さんの勉強会でテーマだったんですよね。</p>
委	員	<p>そうですね、九州地区の。宮崎県日向市のキャリア教育の推進の旗上げが学校ではなくて企業の方です。</p>	
教	育	長	<p>企業の組合の中に教育、先生達が入って、たとえば長崎であれば、どういう企業があって、そこにどういう人材が求められているかということを教育に活かす。</p>
委	員	<p>企業側から流れてきて、こうしてほしい。こんな働きがあるよというようなことです。</p>	
市	長	<p>今、長崎の企業と大学の就職。企業が市内の学校からなかなか来てくれないというのがあって。そもそも、どんな企業があるか知らないんじゃないかと話が出た時に。アンケートを取ると、長崎の企業は全然状況が分かってないと、時期もずれているし、全然情報を出さないし、もっといろんなやり方があるのにそれをやらないし、企業にとってかなり厳しい意見が</p>	

市 長	<p>たくさん出たんです。</p> <p>そういう側面もあると思えば、企業もやっぱり何もないのに大学とか学校に行くというのはやっぱり難しい話なので。</p> <p>実際、いい企業が知られてないというのはかなりありますけど。</p> <p>この前、自治基本条例という自分たちのまちを自分たちで良くしようという条例を作ったんですけど、その関係として、小学生の子どもたちにまちづくりの提案をしてもらう事業があったんですけど、いろんな面白いものが出てきて、6年生ぐらいになるともう提案ではなくで、今こんなことをやってますみたいなのが出てくるんです。</p> <p>そういうのを見ていると、子どもたちがもっと地域の中に入ってきて、ボランティア活動とかを体験する。子どものボランティアが実践されてくると、そこで地域とかかわりを持ったり、地域の人と知り合いになったり。あそこにあるケーキ屋さん、実は働く場所としてはいい場所、いい人たちが働いていることが分かったりとか。</p> <p>社会と接点を持つというのは、さっきのキャリア教育に繋がってくることになるのかなと思いつつ聞いてたんですけども、子どもの力って結構、すごいものを持っているっていう意味では、もっと社会の中に入ってきてもらった方がまちが元気になるような。</p> <p>その中で、例えば、長崎の子どもたちにごちそう、例えば、卓袱をみなさん一緒に食べましょう。そういう券を配ったらどうか、みたいなそういうのがあったりとかして。すごく面白いですよ。すごくヒントになる。キャリア教育、単に学校の中ですするというか、まちの中に出てもらって。</p>
委 員	<p>そうなんです。事務局もご存じのように、地域社会に開かれたきっかけづくりの一つの大きなテーマかなという。</p> <p>もっと言うと、例えば、単に会社とかそういうものじゃなくて、農業漁業とかもやっぱり視野に入れてほしいなど。</p> <p>農業漁業も選ぶことができる社会になってないと。農地がないうちは、土地を借りて。最近、農業も工業形式ですよ。そんなのもあるよみたいな、そういうのを広く紹介したら面白いんだろうなと思いますね。そういった土地を提供してもらおうような仕組みを、借りられるような仕組みがないとそれも夢物語に終わってしまいますから。</p>
市 長	<p>この会議で現場を見に行き、帰ってきて議論するとか、そういうのがあっても面白いですね。テーマとしてたくさんありそうですね。</p> <p>今まで、大綱を決めるところから始めて、平和教育を何回かやってき</p>

市 長	<p>ましたけど、かなりいい形になってきている、やっぱり、議論することで一つずつ実践して、形になっていくということが大事なので、そういう意味では、これまで1年半、これからこう形になるテーマをもうちょっと探していかないと。</p>
教 育 長	<p>せっかく大綱を作ってますので、まちづくりの中の人づくりの中で、市長部局と同じ方向を向いて、教育の分野は何をやるかっていうのはできるかなと。</p> <p>これがテーマなので、こういう人材を作らないといけないよね。それでは、どこの地点に何を入れたらいいのかとかですね。</p> <p>先ほどのキャリア教育を、去年、今年からやっぱり、15の春に飛び立つためには目的意識を持たないとね。という時に、キャリア教育が一つの柱にはしてますよね。そういうところと、実際の長崎市のまちの求人であるとか、光り輝く職場はどこであるのかとか、いろんなところを結びつけると、ここの会議だからこそでき得ることがあるような気がしますね。教育で一生懸命ディスカッションするというのもあるけど。</p> <p>それと、もう少し施策と結びつくような形。うちの部局の旗振りをこの間からさせてもらってるけど、そういうところで、少し議論ができれば。もう少し議論する機会を常々思っていないといけないんでしょうけどね。</p>
市 長	<p>教育委員会で常々協議をしてもらっていいし。それがまた、もっと子どもに広がってきて、社会とつながってきたりして、教育委員会の中だけでは、ちょっと議論しても回答が見つけにくいというようなテーマがここにはたぶん適しているような。</p> <p>そういうことを見つけて、平和教育は完全にまたがっているんで、そういう意味ではすごくいいテーマだったと思ってるんですけども。</p> <p>テーマを探しながら、見つけてきた回答が政策に反映されていくような、そういう流れを作っていきたいですね。実のある総合教育会議にしていきたいと思っています。</p>
委 員	<p>平和教育のことで、ひとついいですか。</p> <p>さるくちゃんのキャラクターはかなり浸透してるじゃないですか。</p> <p>平和をテーマにしたキャラクターというのを子どもたちに考えさせて、みんな平和を楽しく学びましょうみたいなのができないのかなと思ったんですけどね。</p>

市 長	平和をテーマにしたキャラクター、何かいましたね。ピースボランティアで作っていますよね。
事 務 局 (市長部局)	<p>私どもが育成しているピースボランティアという団体、だいたい高校生から 30 歳までの団体がありまして、そこでいろいろキャラクターを決めていこうかということ、今、活動してる段階です。</p> <p>ずっと活動を続けてくれているんですけど、自分たちで使うシンボルマークみたいなのがなかなか定まらずで、一つそれを定めることで、みんなの旗印というか、そういうものになるんじゃないかと考えてたので。</p>
教 育 長	できつつありますか。
事 務 局 (市長部局)	いやまだ、ピースボランティアの子どもたちが、いろいろ自分たちでアイデアを出している段階で、かかりきりでしてるわけではないんですよ。
委 員	それこそ浸透させるためには、全学校とかに募集して。一等賞は何かもらえるとか。
市 長	みんなだね。幅広く募集するとか。私、投票するとか。
委 員	平和について考えるいい機会ですね。
委 員	みんなで何か作るっていうふうなことを、まずは一つの共通の目標であっていいのかもしれないですね。
市 長	それならみんな使いたくなるというか。使う人が増える。
委 員	<p>それからもう一つ、8月9日にサイレンが鳴りますよね。あれはサイレンにこだわってるんですか。</p> <p>県外から来られた方、ものすごくびっくりされるんじゃないですか。</p> <p>サイレンではなく、きれいな長崎の鐘のイメージで。サイレンだからこそいいんでしょうか。そこにこだわりがあるのか。私たちは慣れてるから、あ、サイレンが鳴るとわかる。ところが、県外から来た人たちはすごくびっくりされて。事前に放送があるから、まだいいんですけど、あんなすご</p>

委 員	いサイレンが鳴ると思っておられなかったみたいで、長崎の鐘のきれいなメロディーみたいなのが鳴るのかなとイメージで思ってたとすごくびっくりされた。もし、こだわりがあるなら、サイレンになるんですけど、どうなんでしょうか。
市 長	平和のイメージ。音楽を流すのか、サイレンを鳴らすのか。 そうですね、防災行政無線を使っていますので、それはちょっと確認してみます。サイレンしか流せないのか、それとも千羽鶴でも流せるのか。
委 員	広く投げかけるとか、考えるいい機会になるんじゃないですか。
事 務 局 (市長部局)	毎月9日は千羽鶴ですよ。黙とうの時だけサイレンが鳴ります。
市 長	防災行政無線で千羽鶴を流してるならできますね。
事 務 局 (市長部局)	平和公園周辺が浦上教会の鐘の音。公園にある鐘も一緒に鳴りますから。地域ごとに聞こえる音が違ってるのかもしれないですね。
市 長	伝わる範囲が狭くなったりするのかもしれないですね。 他に何か。なければ、これで第1回の総合教育会議を終了したいと思います。ありがとうございました。
	<b>【16：33 閉会】</b>